

令和5年度

柏市学力・学習状況調査
結果報告

令和6年3月

柏市教育委員会

目次

1	調査の概要	P1
	(1) 調査目的		
	(2) 調査対象・調査教科等		
	(3) 調査内容		
2	調査結果の概要	P2
	(1) 全体概要		
	(2) 経年変化		
	(3) 平均正答率		
	(4) 達成率		
	(5) 中央値		
3	教科別調査結果概要【小学校】	P4
	(1) 国語		
	(2) 算数		
4	教科別調査結果概要【中学校】	P16
	(1) 国語		
	(2) 数学		
	(3) 英語		
	(4) 理科		
	(5) 社会		
5	「4つのC」	P26
	(1) 質問項目一覧		
	(2) 「4つのC」の概況		

1 調査の概要

(1) 調査目的

児童生徒の学力・学習状況を把握し、各学校における学習指導及び生徒指導等の改善並びに教育委員会の施策・事業の改善等に資する。

(2) 調査対象・調査教科等

対象学年	人数	調査教科等	
小学校	1年	3538人	国語・算数
	2年	3661人	
	3年	3632人	生活・学習意識調査
	4年	3419人	
	5年	3516人	
	6年	3480人	
中学校	1年	3134人	国語・数学・理科・英語・社会
	2年	3156人	生活・学習意識調査
	3年	2948人	生活・学習意識調査

(3) 調査内容

ア 教科に関する調査

(ア) 調査日

令和5年11月20日(月)～令和5年12月5日(火)の期間中に各学校が設定した日

(イ) 調査問題構成

- ・当該学年の10月末までの履修範囲
- ・学習指導要領に基づいた観点・領域などから学力を総合的に測定できる内容
- ・記述式を含む内容
- ・基礎及び応用の両面からの出題
- ・思考・判断・表現を測る問題については主に論述式での出題
- ・教科意識調査

イ 生活・学習意識調査

(ア) 調査日

柏市学力調査の実施日と同日。

※中学校3年生は、実施期間内の任意の日時に設定する。

(イ) 調査方法

一人一台端末を使用して、Google Formsへ回答する(CBT方式)

(ウ) 調査内容

- ・学習意欲、学習習慣、生活習慣に関するアンケート調査
- ・小1から中3まで、ほぼ同一設問で調査
- ・調査項目のうち18項目は、「4つのC」を測る指標として数値化

(エ) 「4つのC」について

柏市教育委員会では、柏市第五次総合計画後期基本計画及び第2次柏市教育振興計画を受け、柏市の子供たちに付けたい力を「4つのC」として示している。

本調査において、この「4つのC」から見取れる児童生徒の現状を毎年度把握し、目指す姿に向けて各種取組を進めている。

① 見通す力 (Concept)	② 挑戦する力 (Challenge)
③ 関わり合う力 (Communication)	④ 自律する力 (Control)

2 調査結果の概要

(1) 全体概要

国語		教科総合	基礎	応用
小	1年	≒	≒	≒
	2年	≒	≒	≒
	3年	≒	≒	≒
	4年	≒	≒	≒
	5年	≒	≒	▽
	6年	≒	≒	≒
中	1年	≒	≒	▽
	2年	≒	≒	≒

算数/数学		教科総合	基礎	応用
小	1年	▽	≒	▼
	2年	≒	≒	▽
	3年	▽	▽	▽
	4年	▽	▽	▽
	5年	≒	▽	≒
	6年	≒	≒	≒
中	1年	≒	≒	≒
	2年	○	○	≒

理科		教科総合	基礎	応用
中	1年	≒	≒	≒
	2年	≒	≒	≒

英語		教科総合	基礎	応用
中	1年	○	○	◎
	2年	○	○	○

社会		教科総合	基礎	応用
中	1年	≒	≒	≒
	2年	≒	≒	≒

評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

(2) 経年変化

柏市の偏差値(全国)推移

小1	2025	2024	2023	2022
	令和7	令和6	令和5	令和4
国語	-	-	49.4	47.9
算数	-	-	47.8	46.0

小6	2025	2024	2023	2022
	令和7	令和6	令和5	令和4
国語	-	-	50.6	49.0
算数	-	-	49.7	48.8

小2	2025	2024	2023	2022
	令和7	令和6	令和5	令和4
国語	-	-	49.7	49.1
算数	-	-	49.0	47.8

中1	2025	2024	2023	2022
	令和7	令和6	令和5	令和4
国語	-	-	49.8	50.6
数学	-	-	50.8	50.8
英語	-	-	51.9	51.4
社会	-	-	49.6	未実施
理科	-	-	49.9	49.4

小3	2025	2024	2023	2022
	令和7	令和6	令和5	令和4
国語	-	-	49.3	48.3
算数	-	-	48.8	47.9

小4	2025	2024	2023	2022
	令和7	令和6	令和5	令和4
国語	-	-	49.9	49.1
算数	-	-	48.4	47.9

中2	2025	2024	2023	2022
	令和7	令和6	令和5	令和4
国語	-	-	50.3	50.4
数学	-	-	50.9	50.7
英語	-	-	51.5	51.2
社会	-	-	50.4	未実施
理科	-	-	49.3	50.4

小5	2025	2024	2023	2022
	令和7	令和6	令和5	令和4
国語	-	-	49.5	48.5
算数	-	-	49.2	49.0

(3) 平均正答率 (%)

		国語		算数/数学		英語		社会		理科	
			柏-全国の差		柏-全国の差		柏-全国の差		柏-全国の差		柏-全国の差
小学校	1年	74.2	-1.1	86.5	-2.9						
	2年	80.4	-0.5	78.7	-1.7						
	3年	60.9	-1.3	71.0	-2.5						
	4年	60.9	-0.1	68.8	-3.3						
	5年	68.7	-0.8	61.5	-1.8						
	6年	70.3	1.0	66.4	-0.7						
中学校	1年	69.1	-0.3	53.3	1.8	71.9	3.8	51.0	-0.8	65.2	-0.2
	2年	69.2	0.6	52.6	2.1	46.7	3.1	56.9	0.8	58.4	-1.3

(4) 達成率 (%)

達成率とは、その集団において、目標値(目標正答率)に達している児童生徒の人数の割合のこと。目標値とは、「おおむね満足」と言える水準として設定した、目標とする正答率(%)である。

		国語		算数/数学		英語		社会		理科	
			柏-全国の差		柏-全国の差		柏-全国の差		柏-全国の差		柏-全国の差
小学校	1年	73.5	-2.1	79.1	-5.7						
	2年	78.7	-2.6	78.3	-2.4						
	3年	64.7	-2.7	73.7	-3.7						
	4年	71.6	1.0	67.9	-6.0						
	5年	67.9	-2.2	59.4	-4.1						
	6年	72.1	1.2	72.5	-1.8						
中学校	1年	80.2	-0.3	64.1	3.3	74.1	5.1	60.4	-1.8	74.3	0.6
	2年	71.1	0.7	63.8	3.7	59.4	5.9	63.6	2.3	60.2	-1.9

(5) 中央値 (%)

中央値とは、その集団における正答率を大きい順に並べたとき、全体の中央に来る値(つまり、真ん中の順位にあたる児童生徒の正答率)のこと

		国語		算数/数学		英語		社会		理科	
			柏-全国の差		柏-全国の差		柏-全国の差		柏-全国の差		柏-全国の差
小学校	1年	76.2	0.0	91.3	0.0						
	2年	85.7	0.0	83.3	0.0						
	3年	61.9	0.0	79.2	0.0						
	4年	63.6	0.0	74.1	-3.7						
	5年	72.0	0.0	63.0	-3.7						
	6年	74.1	3.7	70.4	0.0						
中学校	1年	71.4	0.0	53.6	3.6	75.9	6.9	50.0	0.0	69.0	0.0
	2年	72.4	0.0	51.7	0.0	41.9	3.2	56.7	0.0	59.4	-3.1

3 教科別調査結果概要 【小学校】

(1) 国語 平均正答率 (%)

1年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		74.2	75.3	-1.1	≒
基礎		80.2	81.3	-1.1	≒
応用		37.8	39.2	-1.4	≒
出題形式	選択式	77.0	78.2	-1.2	≒
	短答式	86.7	87.5	-0.8	≒
	記述式	37.8	39.2	-1.4	≒
観点	知識・技能	87.7	88.8	-1.1	≒
	思考・判断・表現	61.9	63.1	-1.2	≒
領域	言葉・情報・言語文化	87.7	88.8	-1.1	≒
	話すこと・聞くこと	77.5	79.7	-2.2	▽
	書くこと	37.8	39.2	-1.4	≒
	読むこと	56.0	56.8	-0.8	≒

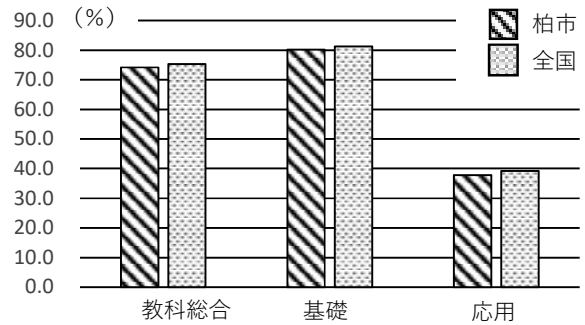
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
□ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

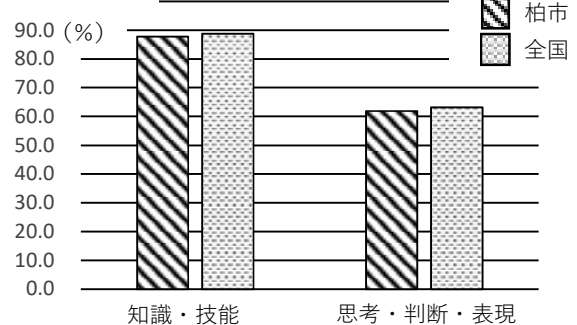
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

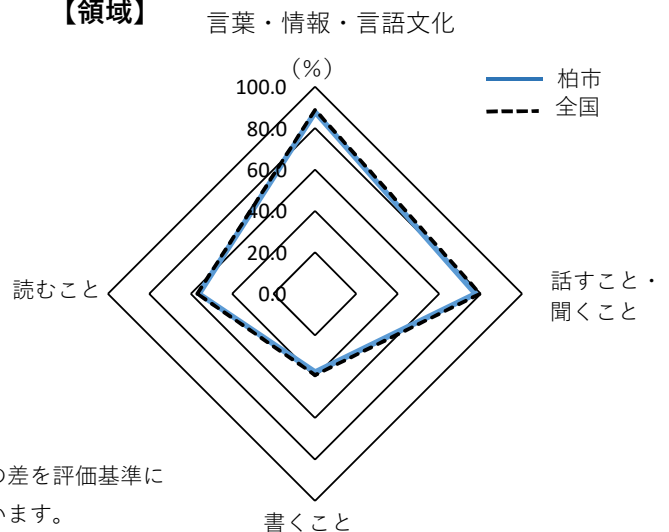
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等である。ただし、無解答率が全国よりも高い。
- ・読むことは全国平均正答率とほぼ同等である。柏市の特色である学校図書館を活用した学習の効果がみられる。
- ・話すことや聞くことは全国平均正答率よりやや下回る。友達と伝え合いを楽しむ活動を充実させたい。また、普段から「もぎとる」といったわかりづらい単語や表現には関心をもたせて話題にしたい。
- ・書くことは全国的に平均正答率が低い。「何を」「どのように」といった2つの条件を満たして書くという力が求められる。日頃の授業でも一問一答形式だけではない多様な問いかけに触れさせたい。

2年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		80.4	80.9	-0.5	≒
基礎		84.5	85.3	-0.8	≒
応用		55.7	55.0	0.7	≒
出題形式	選択式	77.5	76.8	0.7	≒
	短答式	87.2	88.9	-1.7	≒
	記述式	54.6	53.8	0.8	≒
観点	知識・技能	90.2	92.0	-1.8	≒
	思考・判断・表現	71.6	70.8	0.8	≒
領域	言葉・情報・言語文化	90.2	92.0	-1.8	≒
	話すこと・聞くこと	90.1	91.6	-1.5	≒
	書くこと	55.7	55.0	0.7	≒
	読むこと	64.6	63.0	1.6	≒

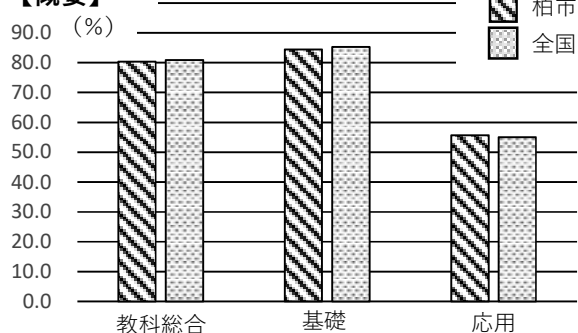
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
□ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

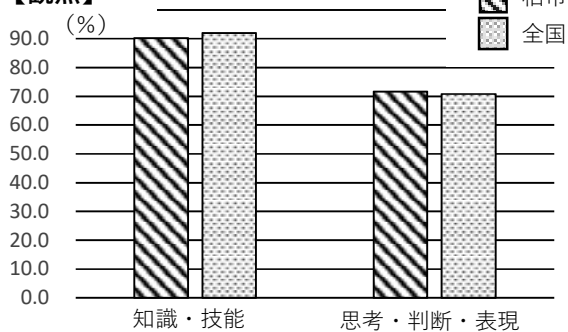
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

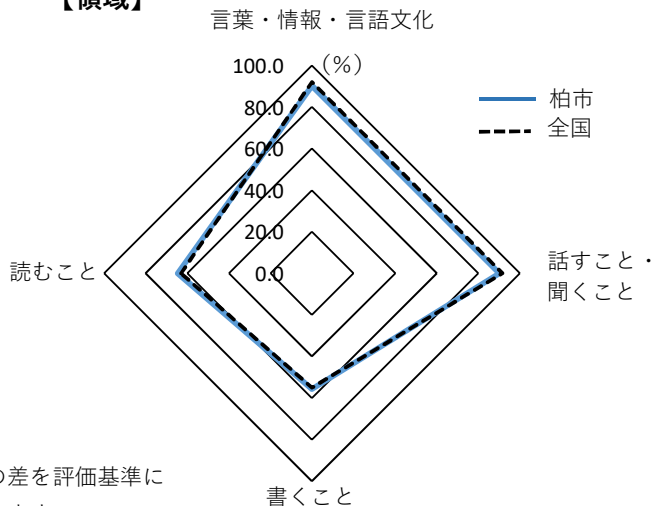
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等である。その中でも読むことは多少良好である。
- ・言葉や情報、言語文化に関することでは、句読点を打つことや漢字の筆順がやや弱い。書写の時間やお礼の手紙を書く活動等で句読点や筆順を意識して丁寧に書くことを心がけたい。また、カタカナや漢字の書きの指導については、時間をかけて使えるようにする必要がある。
- ・話すことや聞くことについて少し課題が見られる。誤答を見ると、全国的な傾向として、語尾を言い切る話し方ができていないところがある。学習や生活の場で、友達と伝え合いを楽しむ中で育みたい。

3年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		60.9	62.2	-1.3	≒
基礎		64.5	66.0	-1.5	≒
応用		45.6	46.1	-0.5	≒
出題形式	選択式	60.3	62.9	-2.6	▽
	短答式	81.9	79.4	2.5	○
	記述式	35.9	36.4	-0.5	≒
観点	知識・技能	70.0	73.6	-3.6	▽
	思考・判断・表現	55.3	55.2	0.1	≒
領域	言葉・情報・言語文化	70.0	73.6	-3.6	▽
	話すこと・聞くこと	75.8	76.1	-0.3	≒
	書くこと	34.5	34.6	-0.1	≒
	読むこと	45.2	44.9	0.3	≒

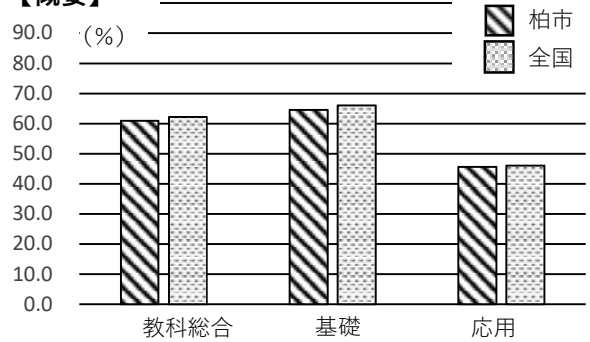
平均正答率 (%)

評価基準	評価
◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
△ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

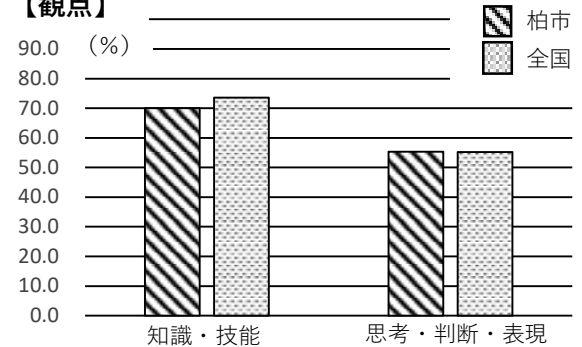
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

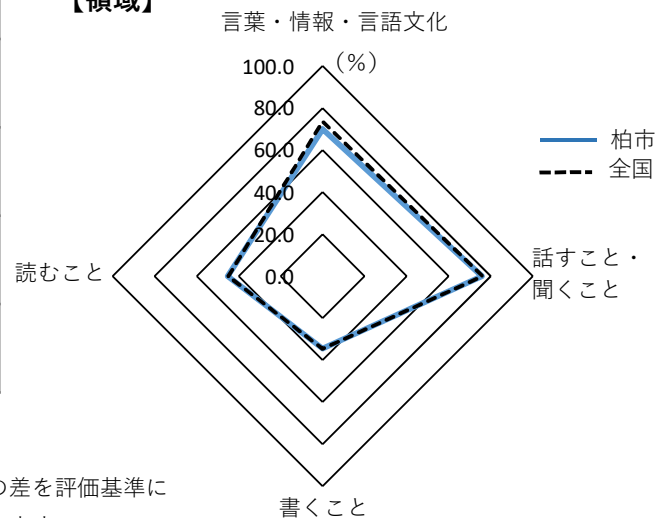
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等である。ただし、無解答率が全国よりも高い。
- ・短答式の漢字の読み書きは、全国平均正答率よりやや上回る。
- ・言葉の特徴や使い方については、全国平均正答率よりやや下回る。特に、主語と述語の理解に課題が見られる。学年が上がるにつれて文量が増える中で、低学年から引き続き主語や述語の関係を意識させたい。
- ・書くことや読むことは全国的にも平均正答率が低い。誤答を見ると、全国的な傾向として、二つの条件が満たされていないところが度々ある。日頃から要点を落とさないようにして書くことが必要である。また、叙述をもとに想像を広げて読み、書いていない答えを見つけられるように読む力を育みたい。

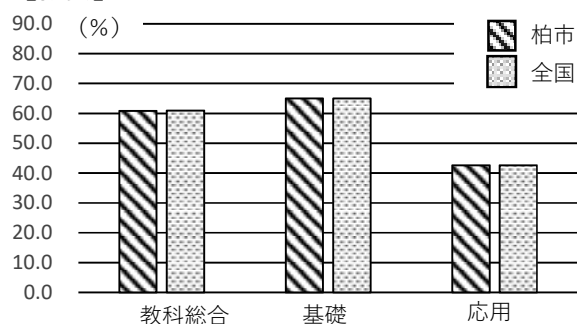
4年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		60.9	61.0	-0.1	≒
基礎		65.0	65.0	0.0	≒
応用		42.6	42.6	0.0	≒
出題形式	選択式	61.4	61.7	-0.3	≒
	短答式	82.1	81.1	1.0	≒
	記述式	30.0	30.5	-0.5	≒
観点	知識・技能	68.3	68.5	-0.2	≒
	思考・判断・表現	55.8	55.8	0.0	≒
領域	言葉・情報・言語文化	68.3	68.5	-0.2	≒
	話すこと・聞くこと	78.3	77.7	0.6	≒
	書くこと	29.6	30.4	-0.8	≒
	読むこと	47.4	47.1	0.3	≒

評価基準	評価
◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
□ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

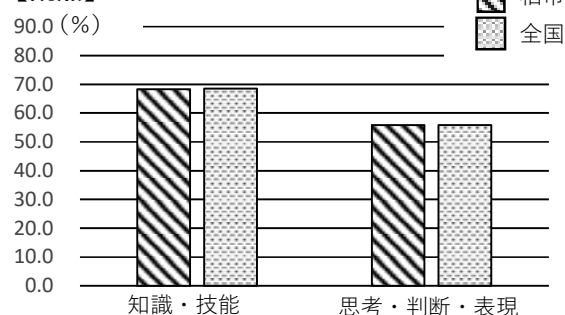
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

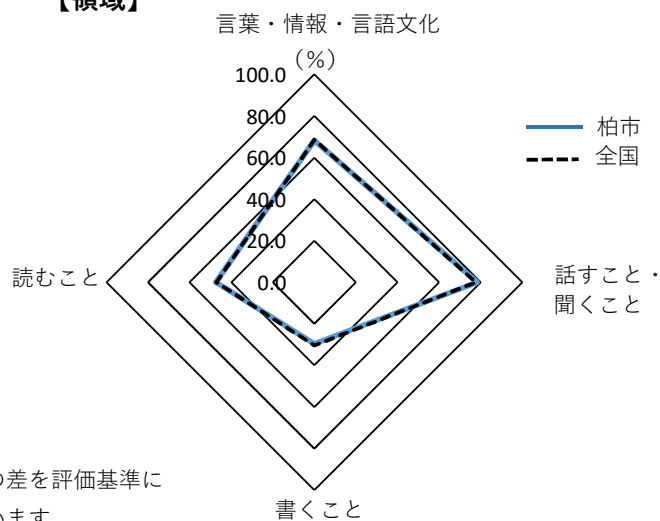
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等である。
- ・話すことや聞くことについては、全国とほぼ同等で平均正答率が高い。ただ、話し手が伝えたいことの内容の中心を捉えるところが少し弱いので、話し合い活動を通して意識させたい。
- ・書くことや読むことは難問で、全国と同様に平均正答率が低い。集めた情報を比較したり分類したりして伝えたいことをまとめる力が求められる。日頃から考えたことのみを伝え合うだけでなく、考えを形成するまでに至った過程についても伝え合うことが必要である。
- ・言語に関することは、ことわざの理解が弱い。日常の中で、複雑な文を簡潔に表すことわざを意図的に使い、語彙力を豊かにさせたい。

5年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		68.7	69.5	-0.8	≒
基礎		71.8	72.3	-0.5	≒
応用		52.0	54.9	-2.9	▽
平均正答率 (%)	出題形式				
	選択式	70.6	70.9	-0.3	≒
	短答式	83.4	83.7	-0.3	≒
	記述式	39.3	42.9	-3.6	▽
観点	知識・技能	79.4	80.2	-0.8	≒
	思考・判断・表現	60.2	61.0	-0.8	≒
領域	言葉・情報・言語文化	79.4	80.2	-0.8	≒
	話すこと・聞くこと	78.1	77.8	0.3	≒
	書くこと	42.2	45.7	-3.5	▽
	読むこと	60.8	61.4	-0.6	≒

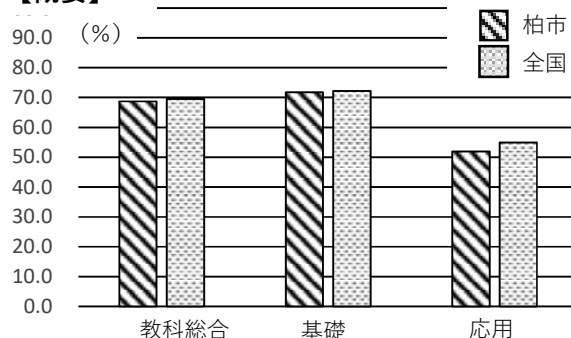
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
□ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

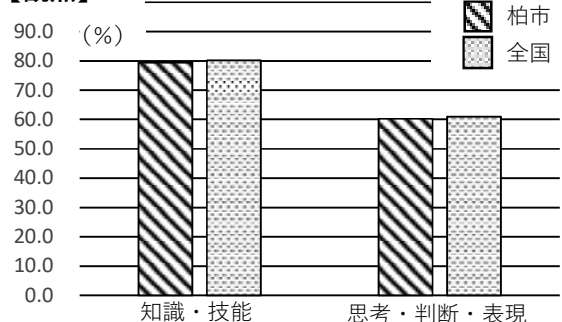
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

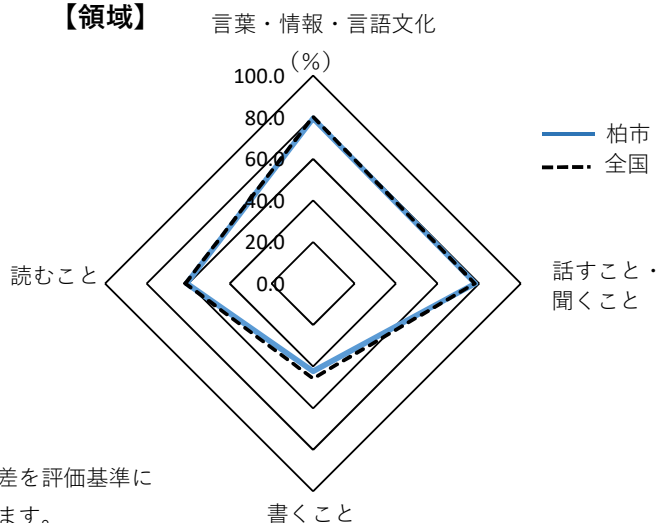
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等である。ただし、無解答率が全国よりも高い。
- ・言語に関することは全国平均正答率とほぼ同等だが、問題ごとに正答率の高低が見られた。慣用句を選ぶ設問は下回っている。漢字や敬語、慣用句等を日常的に使う経験をさせ、定着を図っていく必要がある。
- ・書くことは全国的に平均正答率が低い。柏市は全国平均正答率よりやや下回っている。複数の情報を読み取って、文にまとめることに課題が見られる。目的や意図に応じて、情報を分類したり関係付けたりする活動を重視したい。
- ・記述式の設問は全国平均正答率よりやや下回っており、無解答率も全国より高い。条件に合わせて、必要な内容を整理して書くことに課題がある。日頃の授業でも、条件に合わせて書かせるなど、設問の形式に慣れることも必要である。また、引用部分を正しく表せていない誤答も目立っている。様々な教科を通して、引用の仕方や出典の示し方を意識させていきたい。

6年生 (小・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		70.3	69.3	1.0	≒
基礎		73.6	72.3	1.3	≒
応用		51.4	52.3	-0.9	≒
出題形式	選択式	71.9	71.1	0.8	≒
	短答式	80.0	76.9	3.1	○
	記述式	41.7	43.1	-1.4	≒
観点	知識・技能	75.0	73.5	1.5	≒
	思考・判断・表現	67.1	66.4	0.7	≒
領域	言葉・情報・言語文化	75.0	73.5	1.5	≒
	話すこと・聞くこと	86.5	86.4	0.1	≒
	書くこと	45.2	46.1	-0.9	≒
	読むこと	64.9	63.0	1.9	≒

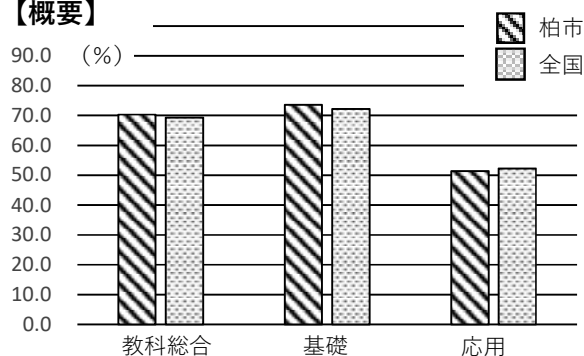
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
△ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

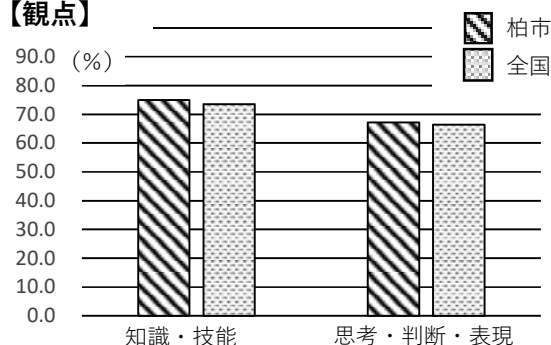
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

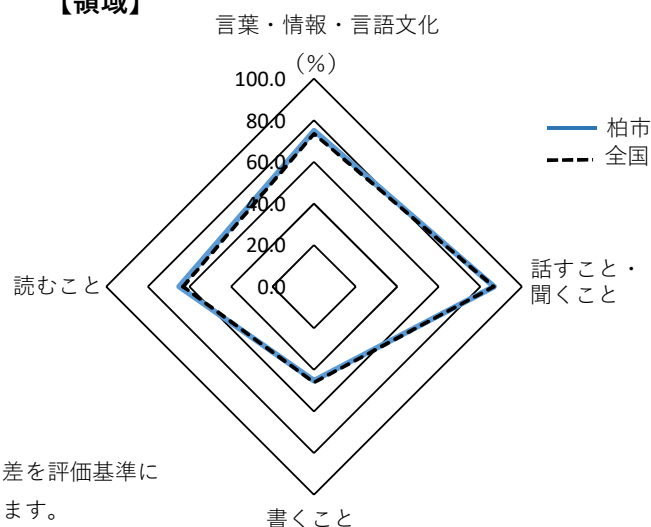
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等である。
- ・読むことは全国平均正答率とほぼ同等だが、文学的な文章、説明的な文章ともに上回っている設問が多い。中には6ポイント上回る設問もあった。
- ・言語に関することは全国平均正答率とほぼ同等だが、和語・漢語・外来語に関する設問と漢字の成り立ちに関する設問の正答率が低い。語句の由来等に関心をもつことができるよう意識して指導に当たりたい。
- ・書くことは全国平均正答率とほぼ同等だが、無解答率が全国よりも高い。特に、正答の条件を満たさない誤答が目立つ。複数の資料から必要な情報を整理してまとめる力が必要になる。様々な教科で、図やグラフ等から読み取ったことを話したり記述したりする活動を行っていきたい。

(2) 算数 平均正答率 (%)

1年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		86.5	89.4	-2.9	▽
基礎		92.3	93.6	-1.3	≒
応用		65.5	74.4	-8.9	▼
出題形式	選択式	91.9	93.5	-1.6	≒
	短答式	92.6	93.7	-1.1	≒
	記述式	65.5	74.4	-8.9	▼
観点	知識・技能	92.3	93.6	-1.3	≒
	思考・判断・表現	65.5	74.4	-8.9	▼
領域	数と計算	84.6	88.1	-3.5	▽
	測定	91.7	93.2	-1.5	≒
	データの活用	92.0	93.5	-1.5	≒

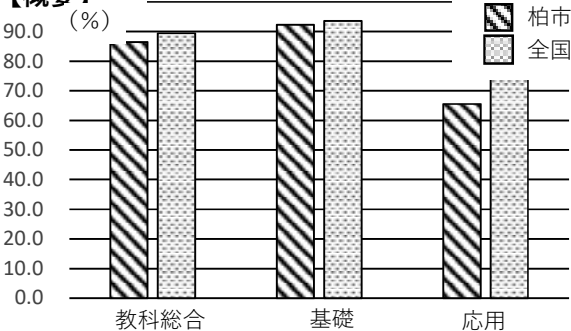
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
△ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

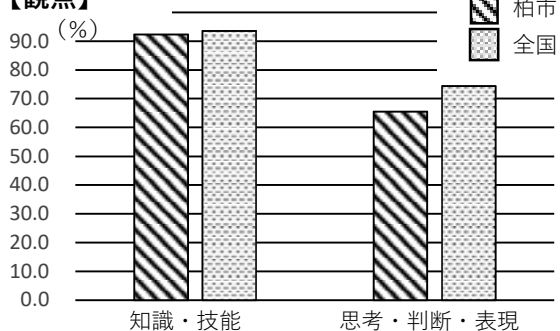
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

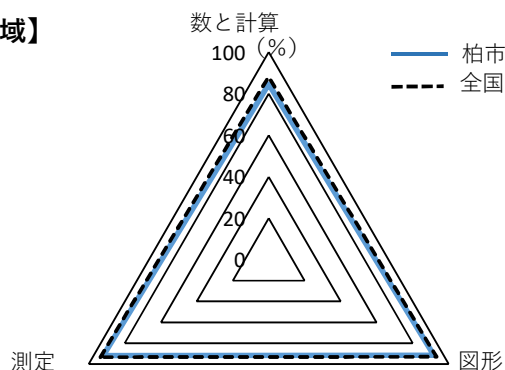
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・ 総合的に全国平均正答率をやや下回っている。
- ・ 基礎は、ほとんどの設問が90%を超える正答率であり、定着が見られる。
- ・ 応用は、全国平均正答率を下回っている。
- ・ 繰り上がりのない1位数+1位数の計算や順序に関する設問、時計を読んで正しい時刻を選ぶ設問では、高い正答率である。引き続き、生活の中で実際に数を使うことで、数を使う良さを感じ、数についての感覚をさらに豊かにしていきたい。
- ・ 応用が下回った要因に、提示された絵から加法及び減法の問題文をつくる記述式設問での正答率の低さがある。学習したことを実際の生活の場面と結び付けて考える活動を充実させたい。

2年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		78.7	80.4	-1.7	≒
基礎		84.5	85.9	-1.4	≒
応用		56.5	59.5	-3.0	▽
出題形式	選択式	82.5	84.3	-1.8	≒
	短答式	85.7	86.8	-1.1	≒
	記述式	51.6	54.8	-3.2	▽
観点	知識・技能	84.5	85.9	-1.4	≒
	思考・判断・表現	56.5	59.5	-3.0	▽
領域	数と計算	73.5	76.0	-2.5	▽
	図形	87.2	88.2	-1.0	≒
	測定	80.0	81.3	-1.3	≒
	データの活用	90.3	90.4	-0.1	≒

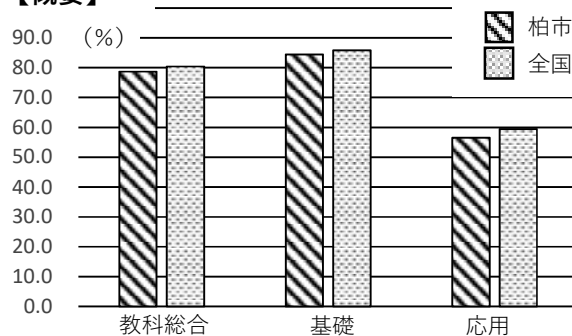
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
□ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

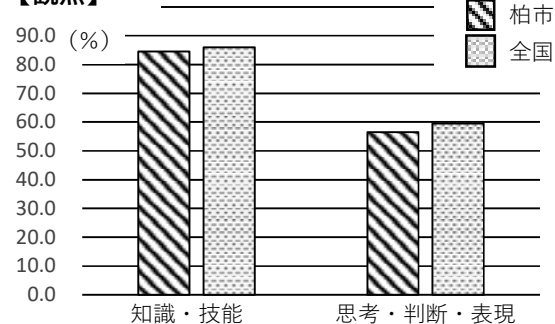
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

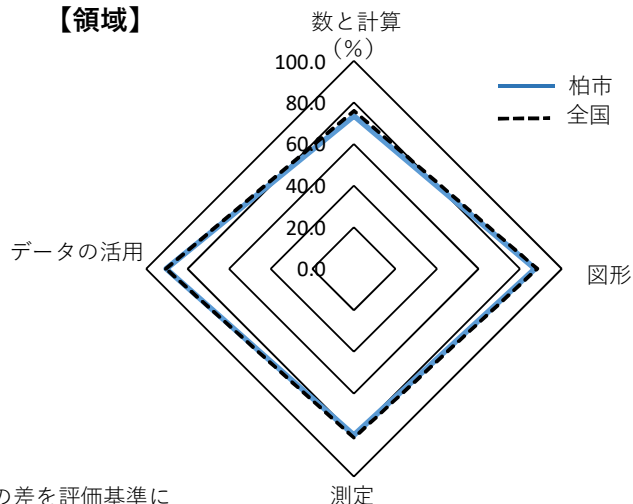
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等である。
- ・基礎は全国平均正答率とほぼ同等。応用はやや下回る。
- ・グラフから設問場面の表す項目を読み取ることや、時計が進んだ時間の長さから時刻を読み取ることの正答率が高い。
- ・数と計算領域において、2つの3位数の大小を表す記号で正しいものを選ぶ設問の平均正答率が全国に比べて大きく落ち込んだ。また、登場人物の会話に沿って場面を式に表し、答えを求める設問の無解答率も高かった。自分たちで問題文を作る活動を取り入れていきたい。
- ・児童のつまづき箇所を把握した上で、個別対応を中心にした指導を取り入れていきたい。

3年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		71.0	73.5	-2.5	▽
基礎		75.6	78.1	-2.5	▽
応用		53.8	56.1	-2.3	▽
平均正答率 (%)	出題形式				
	選択式	71.5	73.5	-2.0	≒
	短答式	81.6	84.7	-3.1	▽
	記述式	58.3	60.6	-2.3	▽
観点	知識・技能	76.3	78.8	-2.5	▽
	思考・判断・表現	58.3	60.6	-2.3	▽
領域	数と計算	71.1	73.4	-2.3	▽
	図形	71.3	76.0	-4.7	▼
	測定	70.4	70.6	-0.2	≒

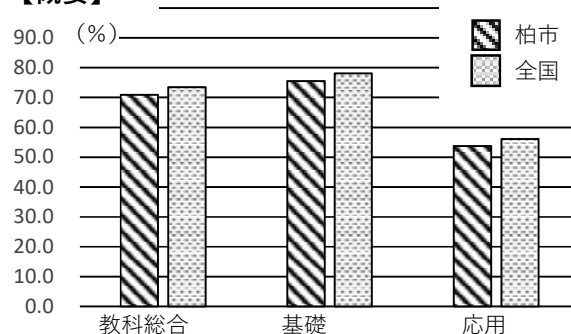
評価基準

● 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
□ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

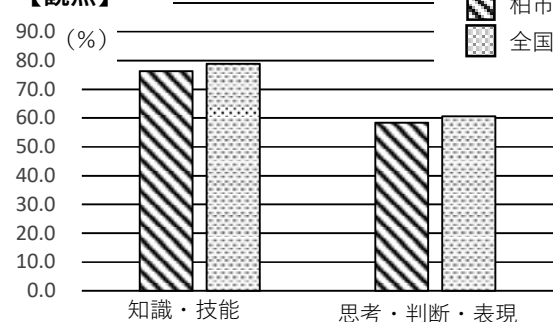
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

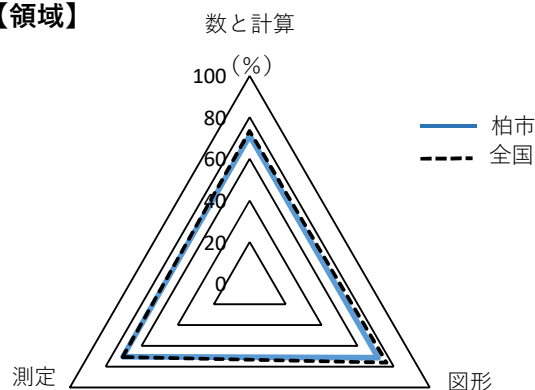
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率をやや下回る。
- ・全国と比較し除法の計算は、ほぼ同等の平均正答率だった。
- ・図形領域に課題が見られる。正方形の1辺の長さからまわりの長さを選ぶ設問は、全国平均正答率よりも下回っている。これは正方形の性質の理解が不十分であることを示している。
- ・直角三角形を選ぶ設問の正答率も低かった。基礎的な知識の定着のために様々な方法で作図する活動を行い、図形の性質や種類に対する感覚を豊かにしていく必要がある。
- ・主体的に学習に取り組む態度に関する質問「難しい問題でも、頑張っているいろいろな考えや解き方を試したり、工夫したりしている」に対しての否定的な回答率が高い。応用問題に対しての無解答率が全国平均と比べてかなり高くなっていることにも関係があると推測される。

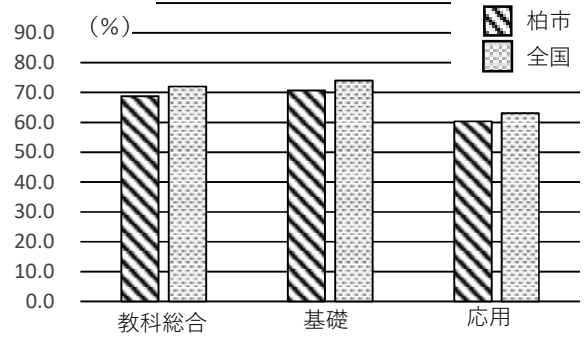
4年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		68.8	72.1	-3.3	▽
基礎		70.7	74.1	-3.4	▽
応用		60.4	63.1	-2.7	▽
出題形式	選択式	71.5	73.1	-1.6	≒
	短答式	70.3	75.1	-4.8	▼
	記述式	51.5	56.3	-4.8	▼
観点	知識・技能	70.4	73.7	-3.3	▽
	思考・判断・表現	61.8	65.0	-3.2	▽
領域	数と計算	72.9	76.7	-3.8	▽
	図形	67.4	70.8	-3.4	▽
	測定	55.3	58.9	-3.6	▽
	変化と関係	75.1	76.5	-1.4	≒
	データの活用	64.2	66.6	-2.4	▽

評価基準	評価
◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
△ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

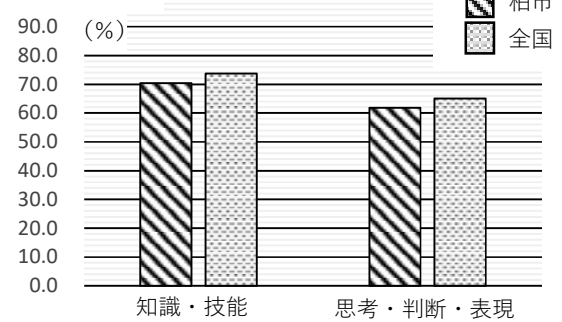
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

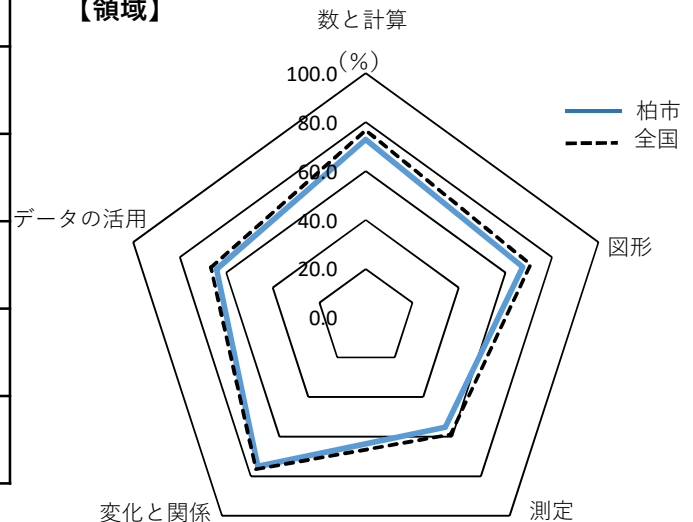
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・ 総合的に全国平均正答率をやや下回る。
- ・ 変化と関係領域は、全国平均正答率とほぼ同等である。
- ・ 数と計算領域の「0.1を集めた数がわかり、正しいものを選ぶ」問題では、9割以上の児童が正答した。
- ・ 図形領域の「正三角形の性質を理解し、条件に合う長さを答える」問題の正答率に二極化が見られた。実際に作図したり、具体物で確かめたりする活動を重視することで、図形を構成する要素にも着目する活動を大切にしたい。

5年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		61.5	63.3	-1.8	≒
基礎		65.8	67.9	-2.1	▽
応用		46.2	47.3	-1.1	≒
出題形式	選択式	57.8	58.7	-0.9	≒
	短答式	70.0	72.7	-2.7	▽
	記述式	49.8	51.6	-1.8	≒
観点	知識・技能	64.7	66.7	-2.0	≒
	思考・判断・表現	52.2	53.6	-1.4	≒
領域	数と計算	59.0	60.6	-1.6	≒
	図形	62.9	65.0	-2.1	▽
	変化と関係	68.2	71.1	-2.9	▽
	データの活用	67.6	69.4	-1.8	≒

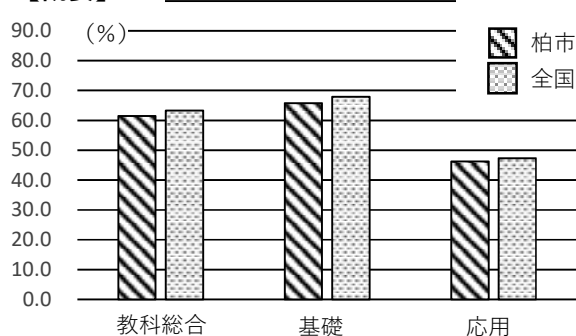
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
□ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

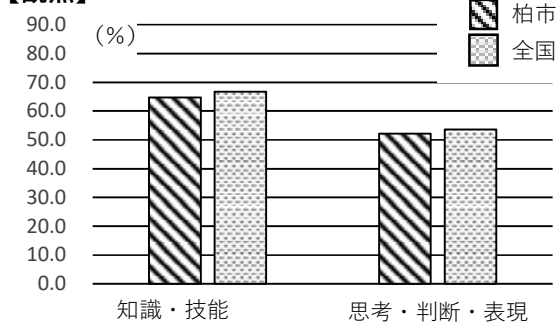
※評価

柏市と全国平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

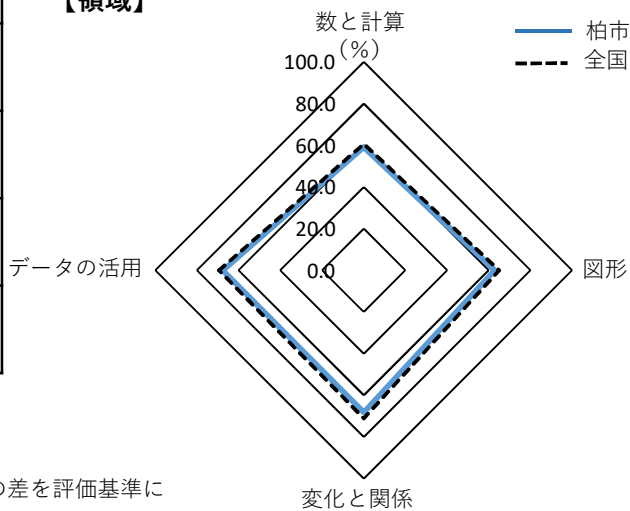
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等である。
- ・分数の足し算では、正答率95.1%と高い結果となった。
- ・数と計算領域の概数で表した計算の結果が違う理由を説明する設問では、柏市の無解答率が高かった。四捨五入の仕組みを正しく理解した上で、説明し合う活動を取り入れていきたい。
- ・図形領域の面積・体積では、長方形の横の長さを求める設問で、正答率が全国を大きく下回った。一部の児童の無解答率が特に高く、当該単元の前提となる基礎に遡った個別指導が必要だと考えられる。

6年生 (小・算数)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		66.4	67.1	-0.7	≒
基礎		71.0	72.3	-1.3	≒
応用		55.5	54.7	0.8	≒
出題形式	選択式	71.4	71.0	0.4	≒
	短答式	68.6	70.3	-1.7	≒
	記述式	39.9	39.2	0.7	≒
観点	知識・技能	71.4	72.4	-1.0	≒
	思考・判断・表現	49.2	48.7	0.5	≒
領域	数と計算	75.0	77.2	-2.2	▽
	図形	67.6	68.9	-1.3	≒
	変化と関係	56.1	54.5	1.6	≒
	データの活用	64.1	64.5	-0.4	≒

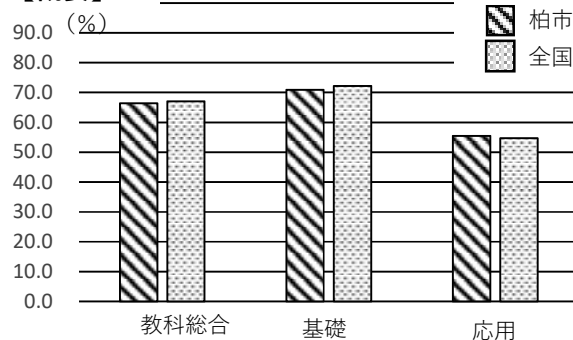
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
△ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

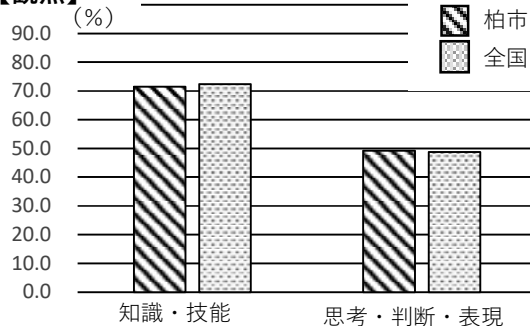
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

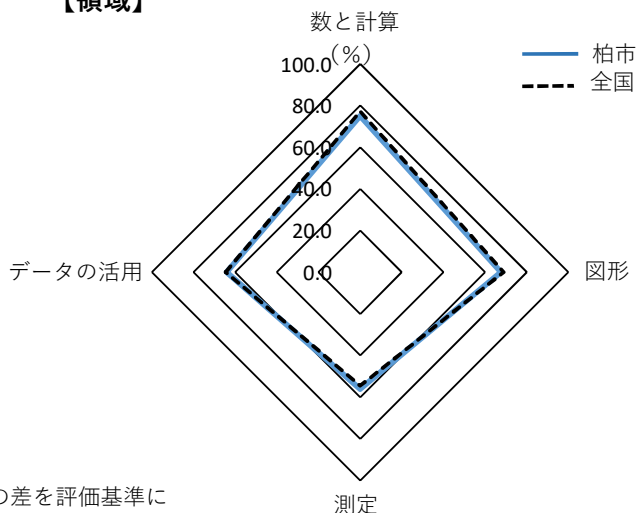
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等であるが、正答率の二極化が顕著である。個に応じた指導・支援をしていく必要がある。
- ・基礎、応用ともに全国平均正答率とほぼ同等。
- ・円の面積を求める正しい式を選ぶ設問では、高い正答率（92.1%）となった。
- ・変化と関係領域では、割合を百分率で求める設問の正答率が全国平均正答率を上回った。
- ・速さを求める応用問題では、全国値同様に無解答率が高い数値となっている。授業では、問いに対する答えの共有だけでなく、思考過程を共有して吟味することを大切に取り入れていきたい。

4 教科別調査結果概要 【中学校】

(1) 国語 平均正答率 (%)

1年生 (中・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		69.1	69.4	-0.3	≒
基礎		72.2	72.1	0.1	≒
応用		50.6	52.9	-2.3	▽
出題形式	選択式	73.8	74.5	-0.7	≒
	短答式	62.8	60.7	2.1	○
	記述式	52.2	54.3	-2.1	▽
観点	知識・技能	66.9	66.7	0.2	≒
	思考・判断・表現	70.8	71.4	-0.6	≒
領域	言葉・情報・言語文化	66.9	66.7	0.2	≒
	話すこと・聞くこと	75.1	76.2	-1.1	≒
	書くこと	59.6	61.2	-1.6	≒
	読むこと	68.5	68.6	-0.1	≒

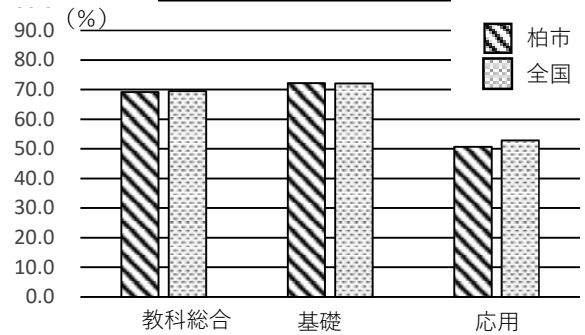
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
□ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
● 下回る	-4.0以下

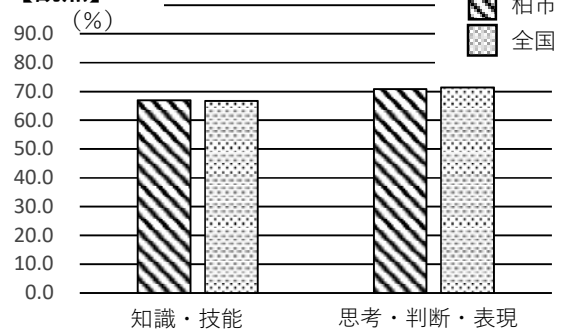
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

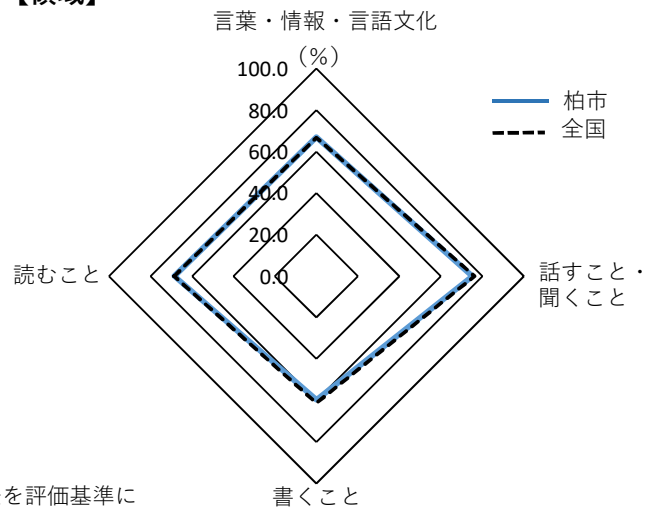
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等である。
- ・基礎は全国平均正答率とほぼ同等だが、応用はやや下回る。
- ・記述式の設問は全国平均正答率をやや下回っている。
- ・読むことは、文学的な文章、説明的な文書のどちらも内容の大体を解釈することができている。しかし、読み取ったことを踏まえて考えを記述する設問は、正答率が全国と同様に低い。特に、正答の条件を全て満たさなければいけない設問は、柏市・全国ともに平均正答率が20%台と低い。叙述や描写を基に自分の考えを記述するだけでなく、友達と共有し、考えを確かなものにする活動を充実させたい。
- ・記述式の設問は、無解答率が高い。日常の教育活動の中で書くことへの経験を重ねる手立てが必要である。

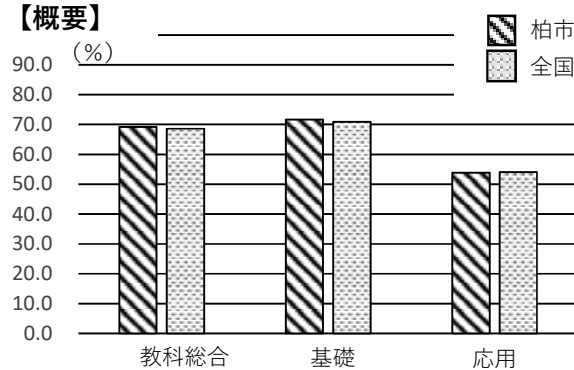
2年生 (中・国語)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		69.2	68.6	0.6	≒
基礎		71.7	70.9	0.8	≒
応用		53.9	54.1	-0.2	≒
出題形式	選択式	70.9	70.4	0.5	≒
	短答式	74.3	72.9	1.4	≒
	記述式	45.7	45.9	-0.2	≒
観点	知識・技能	73.6	72.3	1.3	≒
	思考・判断・表現	65.6	65.5	0.1	≒
領域	言葉・情報・言語文化	73.6	72.3	1.3	≒
	話すこと・聞くこと	79.3	79.3	0.0	≒
	書くこと	53.8	54.0	-0.2	≒
	読むこと	58.8	58.4	0.4	≒

評価基準	
◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
△ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
● 下回る	-4.0以下

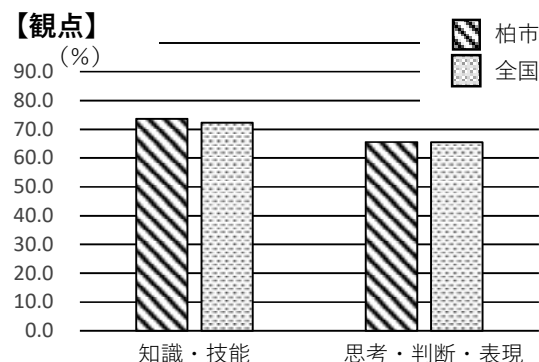
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

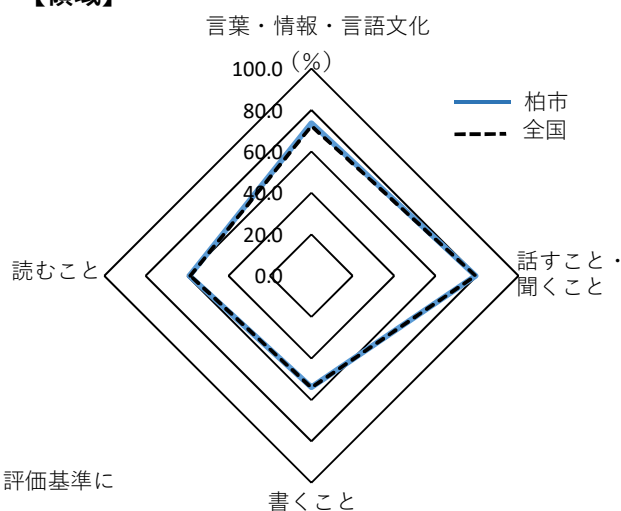
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等である。
- ・出題形式を問わず、どの観点、領域でも全国平均正答率とほぼ同等。
- ・記述式の設定は全国平均正答率とほぼ同等だが、柏市・全国共にどの設問も無解答率が20%以上と高い。
- ・文章読解の設問は、正答率の二極化が目立つ。日頃から読書に親しむなど、文章に触れる機会を増やしていきたい。
- ・書くことは、提案書についての設問があった。様々な資料から必要な情報を整理し、根拠を明確にして記述する力を高めていく必要がある。授業の中で意見文や報告文等の言語活動を行う際は、書いたものを推敲することで、読み手の立場に立って、根拠の明確さ等確かめるようにしていきたい。

(2) 数学 平均正答率 (%)

1年生 (中・数学)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		53.3	51.5	1.8	≒
基礎		57.1	55.3	1.8	≒
応用		36.0	34.2	1.8	≒
平均正答率 (%)	出題形式				
	選択式	61.1	59.6	1.5	≒
	短答式	52.5	50.2	2.3	○
	記述式	17.3	16.9	0.4	≒
観点	知識・技能	57.1	55.3	1.8	≒
	思考・判断・表現	36.0	34.2	1.8	≒
領域	数と式	50.9	49.4	1.5	≒
	関数	62.7	59.5	3.2	○

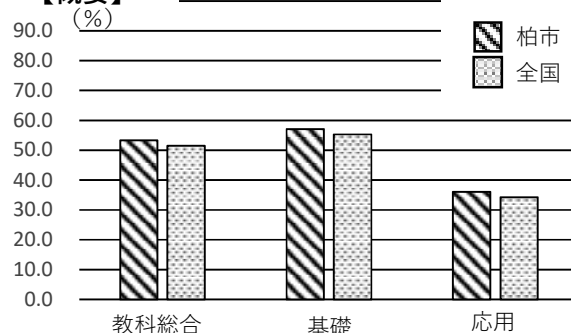
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
△ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
● 下回る	- 4.0以下

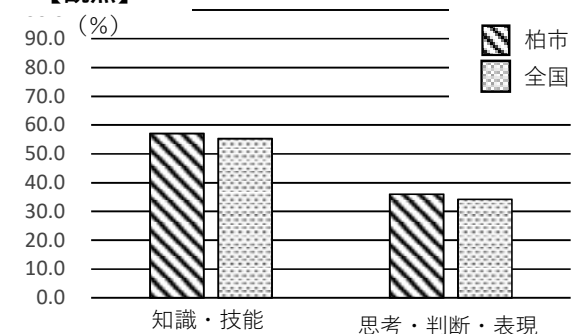
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

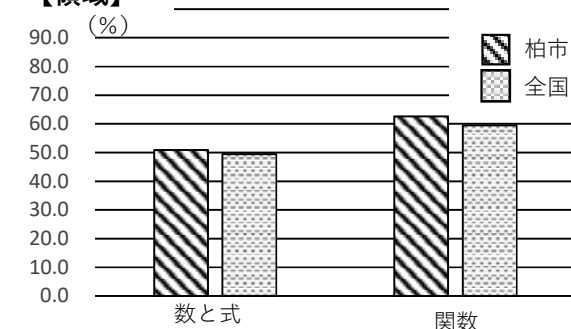
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- 出題形式を問わず、どの観点、領域でも全国平均正答率と比べ、差は全てプラスであった。
- 前半の大問は、基礎的な知識・技能を問う問題で、選択式・短答式で答えるものが多く、高い正答率であった。後半の大問になると、思考・判断・表現の問題が中心で、問題文も長くなり読解力も問われる傾向にあるが、全国平均正答率とほぼ同等であった。
- 「式を作って計算し、その過程を説明する」問題では、全国値同様に平均正答率がかなり低い。速さに関する文章問題に加え記述式の解答となり、全国値同様に無解答率も高かった。授業の中で答えを求めるだけでなく、その過程を相手に伝える活動を取り入れ、自分の考えを明確にしていく必要がある。
- 主体的に学習に取り組む態度についての質問では、肯定的な回答が全国平均よりやや低い傾向が見られる。生徒が主体的に学べるように授業を組み立てていく必要がある。

2年生 (中・数学)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		52.6	50.5	2.1	○
基礎		55.4	53.3	2.1	○
応用		41.5	40.0	1.5	≒
出題形式	選択式	59.3	58.3	1.0	≒
	短答式	49.3	46.8	2.5	○
	記述式	56.2	54.6	1.6	≒
観点	知識・技能	55.4	53.3	2.1	○
	思考・判断・表現	41.5	40.0	1.5	≒
領域	数と式	52.3	50.0	2.3	○
	図形	59.9	59.6	0.3	≒
	関数	48.6	44.0	4.6	◎
	データの活用	47.8	46.1	1.7	≒

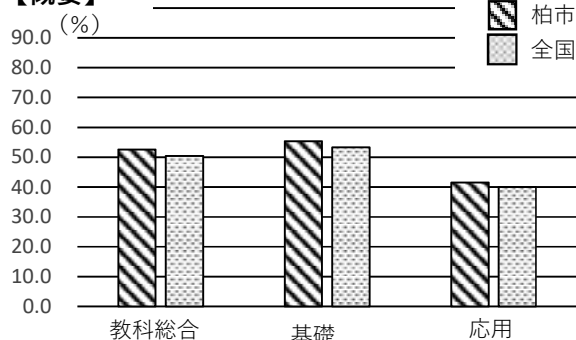
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

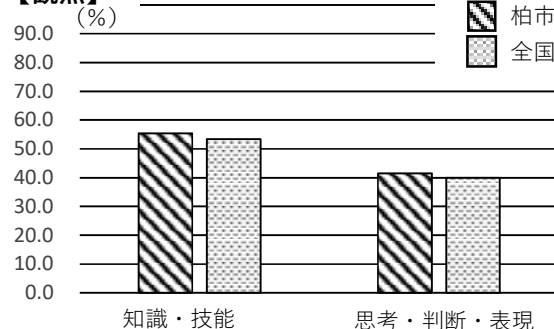
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

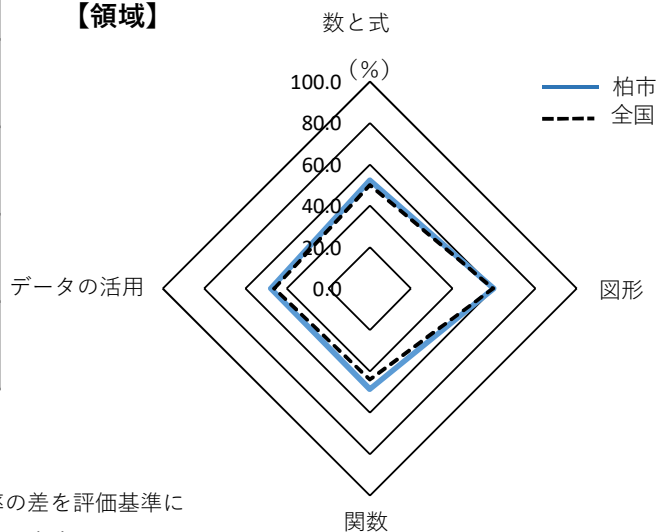
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

- ・ 出題形式を問わず、どの観点、領域でも全国平均正答率と比べ、差はプラスであった。
- ・ 特に関数の領域は全国平均正答率よりも4.6ポイント高くなっている。変化の割合や切片の理解など、一次関数の基礎的な内容がきちんと理解できている。
- ・ 図形領域では、おうぎ形の弧の長さの求め方や角柱の中のねじれの位置を答える問いはやや課題が見られた。図形の基礎知識を確認する必要がある。
- ・ データを比較し、データの傾向を説明する問題では無解答率が高くなっている。データの分布に着目しながら自分の考えをもって、伝えられる力をつけていく必要がある。
- ・ 主体的に学習に取り組む態度についての質問では、肯定的な回答が全国平均よりやや低い傾向が見られる。子どもたちが主体的に学ぶ姿勢を育めるように授業を組み立てていく必要がある。

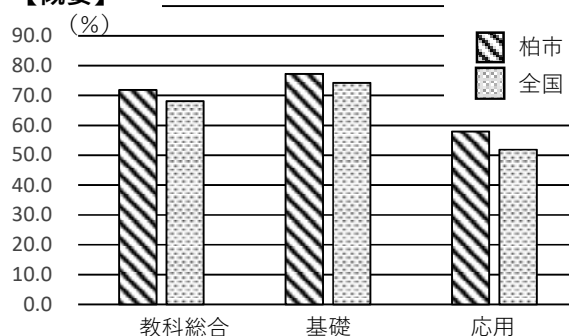
(3) 英語 平均正答率 (%)

1年生 (中・英語)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		71.9	68.1	3.8	○
基礎		77.3	74.3	3	○
応用		57.9	51.9	6	◎
出題形式	選択式	78.6	75.9	2.7	○
	短答式	51.3	44.5	6.8	◎
	記述式	50.7	43.5	7.2	◎
観点	知識・技能	77.1	74	3.1	○
	思考・判断・表現	66.3	61.8	4.5	◎
領域	聞くこと	81.5	79.5	2	≒
	読むこと	70.1	66	4.1	◎
	書くこと	63	57.7	5.3	◎

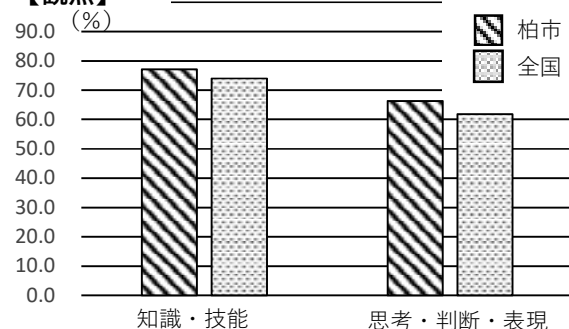
評価基準	
◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

※評価
柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

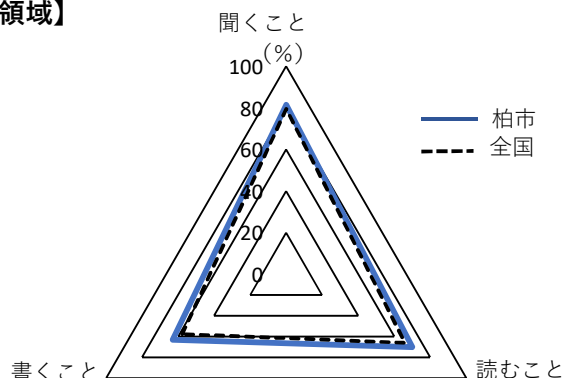
【概要】



【観点】



【領域】

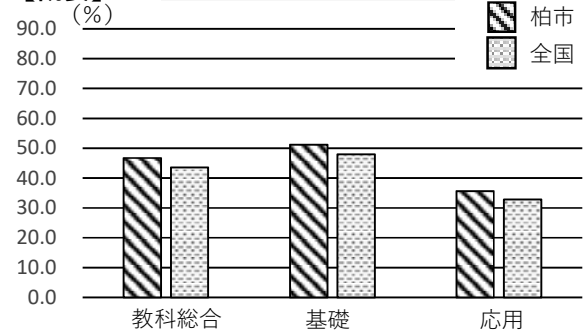


【考察】

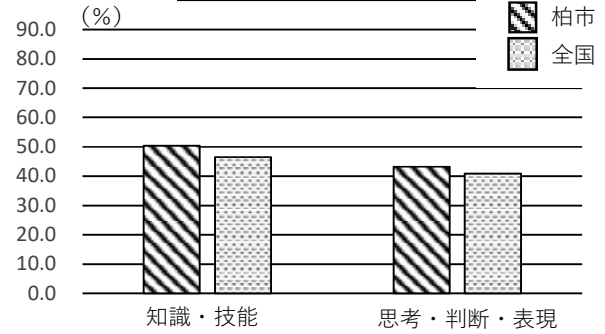
- ・教科総合、出題形式、観点、領域、全てにおいて全国平均正答率を上回っている。
- ・基礎は3ポイント、応用は6ポイントも全国平均正答率を上回っている。
- ・出題された問題は、短いメッセージや日常会話のやりとり、チラシからの情報の読み取りといった多様な形式であった。会話やメッセージ内の文脈に合う疑問文や応答文を記述する設問では、全国平均正答率を5～9ポイントと大幅に上回っている。
- ・まとまりのある長めの会話文を読んで理解し、内容についての質問に対する答えを英語で書く設問の正答率が3割（全国値は2割）と低い。短い会話文に関する同様の設問の正答率が高いため、段階的に読む量を増やしていくとともに、外国語で他者とコミュニケーションをとる経験を重ねていきたい。

2年生 (中・英語)		柏市 (%)	全国	全国との差	評価※
教科総合		46.7	43.6	3.1	○
基礎		51.2	48.0	3.2	○
応用		35.6	32.8	2.8	○
平均正答率 (%)	出題形式				
	選択式	50.6	47.9	2.7	○
	短答式	46.1	41.0	5.1	◎
	記述式	18.9	17.3	1.6	≒
観点	知識・技能	50.4	46.5	3.9	○
	思考・判断・表現	43.2	40.9	2.3	○
領域	聞くこと	56.4	52.7	3.7	○
	読むこと	43.4	41.1	2.3	○
	書くこと	38.1	35.0	3.1	○

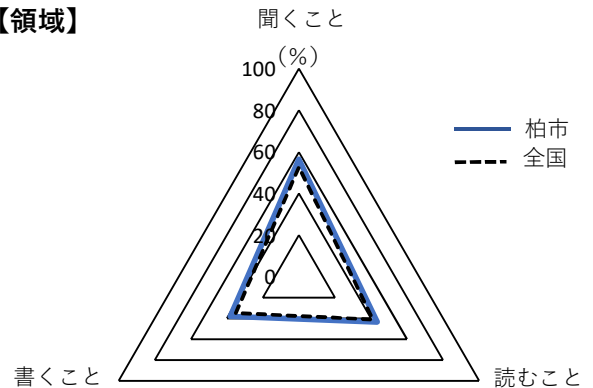
【概要】



【観点】



【領域】



評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
△ ほぼ同等	- 2 ~ 2
▽ やや下回る	- 3.9 ~ - 2.1
▼ 下回る	- 4.0以下

※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

【考察】

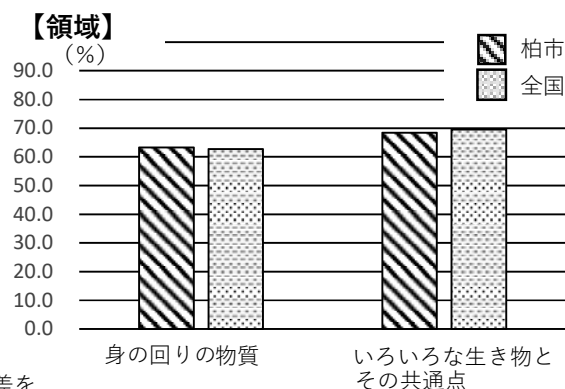
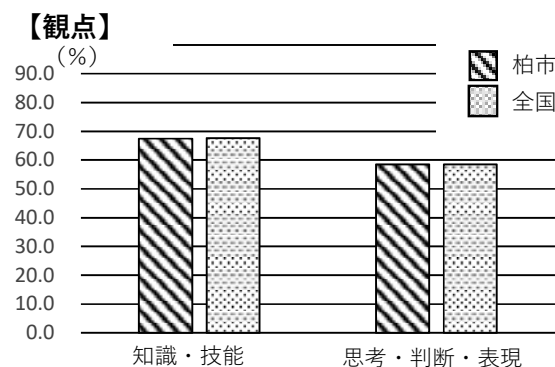
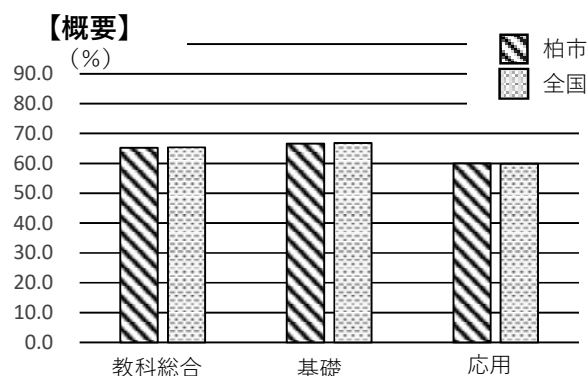
- ・総合的に全国平均正答率を上回っている。
- ・どの観点、領域も全国平均正答率を約2～4ポイント上回っている。
- ・聞き取りの設問では、CDから流れる疑問文に対応する応答文を適切に選択することができた。
- ・正しい英文の文型に単語を並び替える全ての設問において全国平均正答率を上回った。
- ・比較的長い英文、資料や会話を読んで内容に合う英文を選択する問題の正答率が全国値と同様に低い。文脈や情報を整理して読み、文章全体の内容を捉える活動を充実させたい。
- ・記述式の設問では、全国と同様に正答率が低く、無解答率が高い。日頃から短文で考えや気持ちを表現する活動を重視したい。

(4) 理科 平均正答率 (%)

1年生 (中・理科)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		65.2	65.4	-0.2	≒
基礎		66.6	66.8	-0.2	≒
応用		60.0	59.9	0.1	≒
平均正答率 (%)	出題形式				
	選択式	67.9	67.4	0.5	≒
	短答式	61.3	62.7	-1.4	≒
	記述式	58.4	59.9	-1.5	≒
観点	知識・技能	67.4	67.6	-0.2	≒
	思考・判断・表現	58.5	58.4	0.1	≒
領域	身の回りの物質	63.3	62.8	0.5	≒
	いろいろな生物とその共通点	68.4	69.6	-1.2	≒

評価基準	
◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
□ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

※評価
柏市と全国の平均正答率の差を
評価基準に照らし合わせて判定しています。



【考察】

- ・ 出題形式を問わず、どの観点、領域でも全国平均正答率とほぼ同等であった。
- ・ 「生物の観察と分類の仕方」の単位では、正答率が高い傾向にあった。
- ・ 記述式の問題では無解答率が高くなる。記述式の問題に対応できるよう、用語の意味についてきちんと理解し、さらに用語を用いて根拠も述べられるように深い学びにしていくことが授業においても求められる。
- ・ 主体的に学習に取り組む態度の質問では「今日の学習課題を、できる限り自分で考えて設定しようとしている」に対して、肯定的な回答率が低くなっている。自然体験の大切や日常生活や社会における科学の有用性を実感できような場面を設定しながら、生徒一人一人が主体的に考えられるようにし、自分事として課題に取り組めるようにする必要がある。

2年生 (中・理科)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		58.4	59.7	-1.3	≒
基礎		59.9	61.3	-1.4	≒
応用		52.0	53.0	-1.0	≒
出題形式	選択式	57.7	59.3	-1.6	≒
	短答式	61.5	62.1	-0.6	≒
	記述式	38.2	42.2	-4.0	▼
観点	知識・技能	64.0	64.7	-0.7	≒
	思考・判断・表現	44.3	47.1	-2.8	▽
領域	身近な物理現象	67.7	68.1	-0.4	≒
	化学変化と原子・分子	56.1	58.1	-2.0	≒
	大地の成り立ちと変化	43.1	46.5	-3.4	▽
	生物の体のつくりと働き	71.3	70.2	1.1	≒

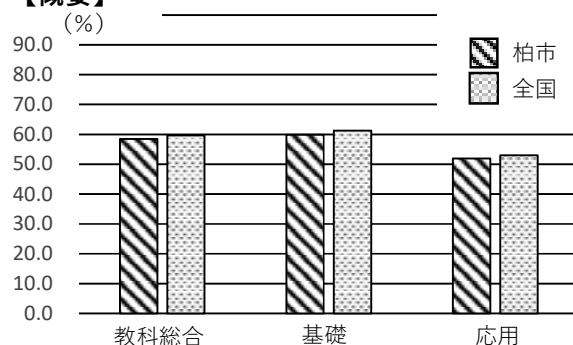
評価基準

◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
□ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

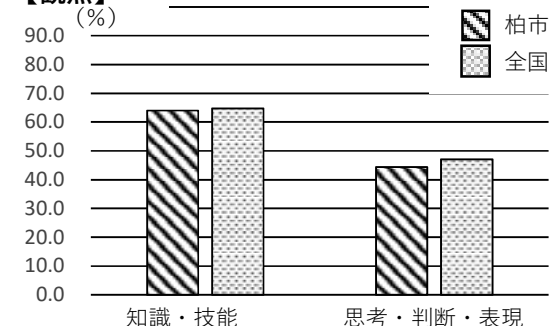
※評価

柏市と全国の平均正答率の差を評価基準に照らし合わせて判定しています。

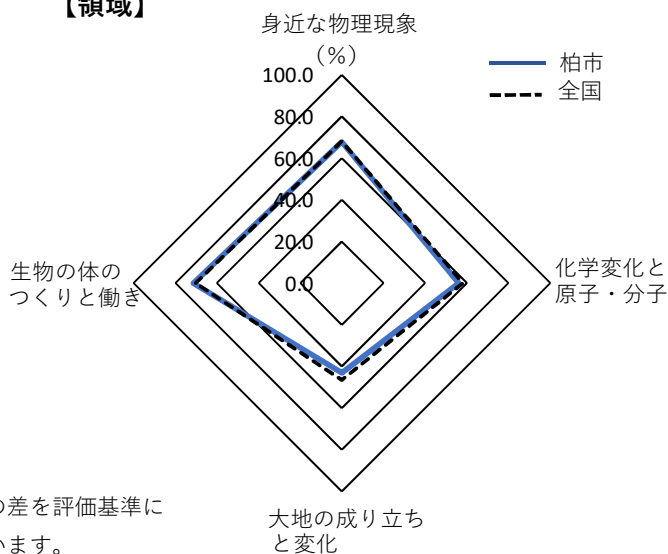
【概要】



【観点】



【領域】



【考察】

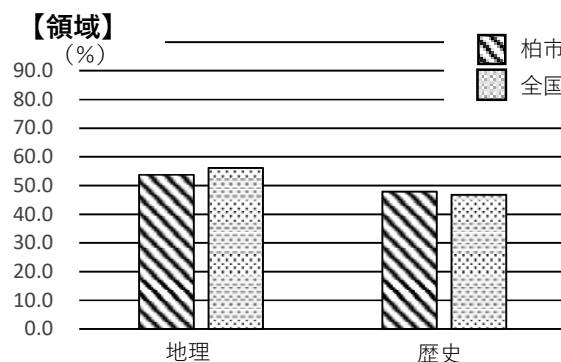
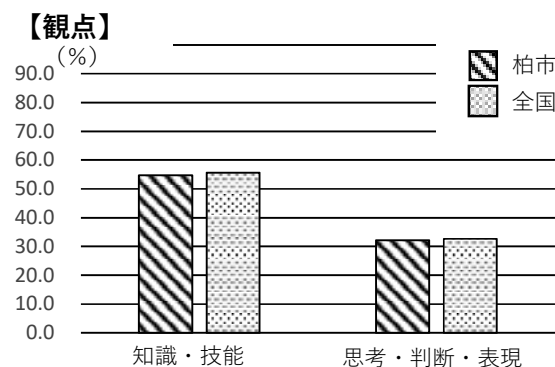
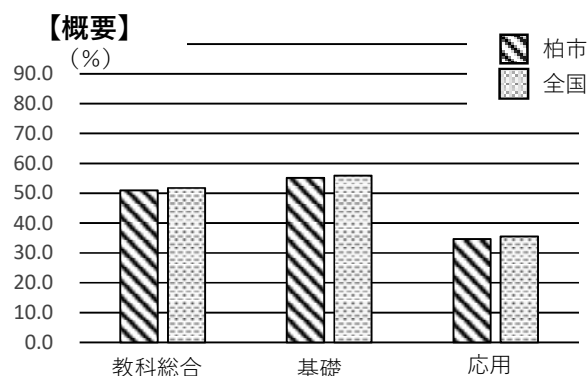
- ・総合的にみると、全国平均正答率とほぼ同等である。
- ・記述式では、音の波形を作図する問題が出題され、正答率が低く、さらに無解答率が高くなっていた。音の性質についてレポート作成や発表を適宜行いながら、規則性や関係性を見い出して表現させることが大切である。
- ・観点では「思考・判断・表現」の部分が全国値平均正答率をやや下回った。知識・技能を活かし、深く考え、発展的に考える力をつけていく必要がある。
- ・主体的に学習に取り組む態度の質問では、全国と比べて肯定的な回答率が高い傾向にあった。その中で、「今日の学習課題を、できる限り自分で考えて設定しようとしている。」については、肯定的な回答率がやや低い。授業における導入で学習課題の設定を工夫していく必要がある。

(5) 社会 平均正答率 (%)

1年生 (中・社会)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		51.0	51.8	-0.8	≒
基礎		55.1	55.9	-0.8	≒
応用		34.6	35.5	-0.9	≒
平均正答率 (%)	出題形式				
	選択式	56.0	56.2	-0.2	≒
	短答式	34.6	39.7	-5.1	▼
	記述式	27.6	29.1	-1.5	≒
観点	知識・技能	54.7	55.6	-0.9	≒
	思考・判断・表現	32.1	32.6	-0.5	≒
領域	地理	53.7	56.2	-2.5	▽
	歴史	47.9	46.8	1.1	≒

評価基準	
◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
△ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

※評価
柏市と全国の平均正答率の差を
評価基準に照らし合わせて判定しています。



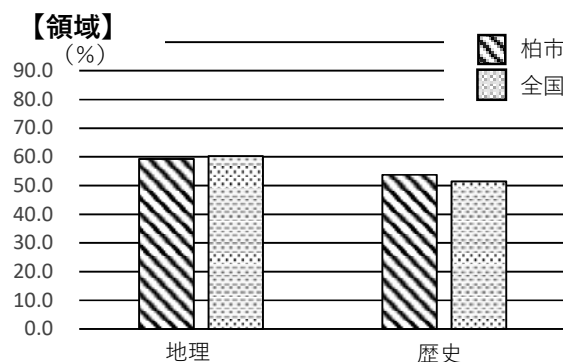
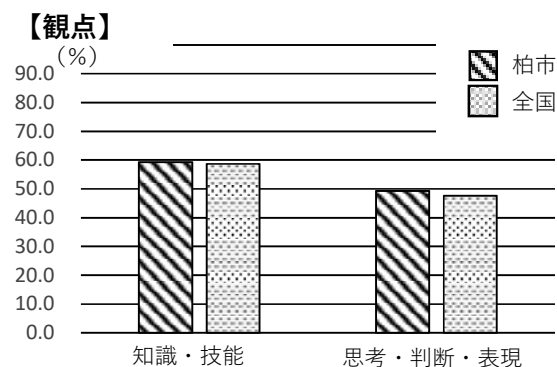
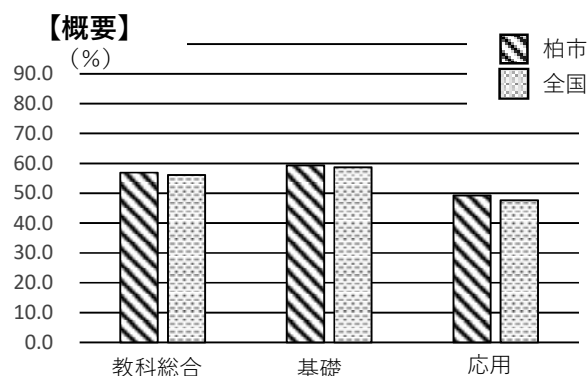
【考察】

- ・総合的に全国平均正答率とほぼ同等である。
- ・社会科用語の知識を問う短答式の設問は、全国平均正答率を下回る結果となった。
- ・3種類の世界地図の特色に関する設問の正答率が高い。
- ・地図から特徴を読み取ったり、対話文や歴史書から歴史的事象の目的を考えて記述したりする設問は、全国平均正答率と同様に低い。無解答率は、全体的に高い傾向が見られた。
- ・選択肢が社会科用語に限定されている設問と比べて、時代背景や社会的事象を取り入れた文章を含む選択肢の設問では、正答率が低下する。このため、資料からわかる事実を比較したり、関連づけたり、時系列に沿って考えたりするなど、さまざまな活動を通じて深い理解を促すことが重要である。

2年生 (中・社会)		柏市 (%)	全国	全国との差	※ 評価
教科総合		56.9	56.1	0.8	≒
基礎		59.3	58.7	0.6	≒
応用		49.3	47.6	1.7	≒
平均正答率 (%)	出題形式				
	選択式	60.1	59.1	1	≒
	短答式	51.1	50.9	0.2	≒
	記述式	36.4	36.8	-0.4	≒
観点	知識・技能	59.3	58.7	0.6	≒
	思考・判断・表現	49.3	47.6	1.7	≒
領域	地理	59.3	60.3	-1	≒
	歴史	53.8	51.4	2.4	○

評価基準	
◎ 上回る	4.0以上
○ やや上回る	2.1 ~ 3.9
△ ほぼ同等	-2 ~ 2
▽ やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼ 下回る	-4.0以下

※評価
柏市と全国の平均正答率の差を
評価基準に照らし合わせて判定しています。



【考察】

- ・教科総合、出題形式、観点において全国平均正答率とほぼ同等である。
- ・歴史領域は、全国平均正答率をやや上回った。
- ・日本の資源・産業の特色に関する単元は、全国平均正答率を4.5ポイント上回った。
- ・歴史領域は、資料と説明文から得られる情報に基づいて解答する記述式の問題が出題され、全国と同様に平均正答率が低くなった。
- ・地理領域は、複数の資料を比較して考察した結果と設問項目の内容が合致したものを選択する設問が多く出題された。普段から資料を読み取ったり調べたりしたことを関連づけて考察し、自分の考えを表現する場面が重要である。

5 「4つのC」

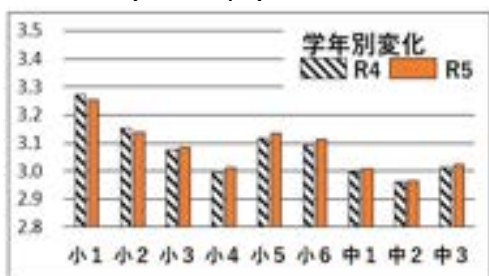
(1) 質問項目一覧

見出し	質問文			
	小学校1・2年生用	小学校3・4年生用	小学校5・6年生用	中学生用
見通す力(Concept)				
夢・目標	しょうらいのゆめはありますか。	しょうらいのゆめはありますか。	しょう来のゆめや目標を持っていますか。	将来の夢や目標を持っていますか。
計画	しゅくだいやべんきょうを、やるじかんをきめてやっていますか。	しゅくだいやべんきょうを、やる時間をきめてやっていますか。	ものごとに取り組む時、計画を立てて取り組んでいますか。	物事に取り組む時、計画を立てて取り組んでいますか。
振り返り	じゅぎょうのあと、わかったこと、わからなかったところがいえますか。	じゅぎょうのあと、わかったこと、わからなかったところが言えますか。	じゅ業のあと、わかったこと、わからなかったことを整理することができますか。	授業のあと、わかったこと、わからなかったことを整理することができますか。
分かる努力	わからないことがあったとき、ひとにきいたり、じぶんでしらべたりしていますか。	わからないことがあったとき、人に聞いたり、自分でしらべたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり自分で調べたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり自分で調べたりしていますか。
改善	なにかをやったあとに、もっとよいやりかたがないかかんがえていますか。	なにかをやったあとに、もっとよいやりかたがないか考えていますか。	ものごとに取り組んだ時、どうすればもっと良くできるか考えていますか。	物事に取り組んだ時、どうすればもっと良くできるか考えていますか。
挑戦する力(Challenge)				
目標への努力	そのゆめにむかってがんばっていますか。	そのゆめにむかってがんばっていますか。	しょう来の夢や目標に近づくために努力していますか。	将来の夢や目標に近づくために努力していますか。
粘り強さ	こまったときに、あきらめずにいろいろなやりかたをかんがえていますか。	こまったときに、あきらめずにいろいろなやりかたを考えていますか。	困難に直面しても、あきらめずにいろいろな方法を考えていますか。	困難に直面しても、あきらめずにいろいろな方法を考えていますか。
挑戦	むずかしいとおもうことでもちろんしていますか。	むずかしいと思うことでもちろんしていますか。	自分には難しいと思うことで、失敗をおそれないで挑戦していますか。	自分には難しいと思うことで、失敗をおそれないで挑戦していますか。
関わり合う力(Communication)				
相手の立場に立って考える力	がっこうで、ともだちのきもちをかんがえてこうどうしていますか。	学校で、友だちの気もちを考えて行どうしていますか。	ふだんの生活の中で、相手の立場・気持ちを考えて行動していますか。	普段の生活の中で、相手の立場・気持ちを考えて行動していますか。
思いやり	ともだちにやさしくしていますか。	友だちにやさしくしていますか。	人に思いやりの気持ちを持って接していますか。	人に思いやりの気持ちを持って接していますか。
伝える力	せんせいやともだちに、いいことをうまくはなすことはできますか。	先生や友だちに言いたいことをうまく話すことはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく説明することはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく説明することはできますか。
傾聴	はなしあいをするとき、ともだちのはなしをしっかりと聞いていますか。	話し合いをするとき、友だちの話をしっかりと聞いていますか。	話し合いをする時、相手の考えを最後まで聞いていますか。	話し合いをする時、相手の考えを最後まで聞いていますか。
相談する力	いやなことがあったときに、ひとにそうだんしていますか。	いやなことがあったときに、人にそうだんしていますか。	なやんでいること、こまっていることがあった時、人に相談していますか。	悩んでいること、困っていることがあった時、人に相談していますか。
協働	クラスのもくひょうにむかって、せんせいやともだちといっしょにがんばることができますか。	クラスのもくひょうにむかって、先生や友だちといっしょにがんばることができますか。	クラス全体での目標達成や問題かい決に向かって、周りの人と協力することができますか。	クラス全体での目標達成や問題解決に向かって、周りの人と協力することができますか。
地域との関わり	がっこうでべんきょうしたことを、だれかのためにやくだてたいとおもいますか。	学校でべんきょうしたことを、だれかのためにやくだてたいと思いますか。	学校などで学んだことを、地いきや社会のために役だてたいと思いますか。	学校などで学んだことを、地域や社会のために役だてたいと思いますか。
自律する力(Control)				
主体性	じぶんのことはじぶんでやろうとしていますか。	自分のことは自分でやろうとしていますか。	自分がすべきと思うことを自ら進んでやっていますか。	自分がすべきと思うことを自ら進んでやっていますか。
自己肯定感	じぶんのことがすきですか。	自分のことがすきですか。	自分のことが好きですか。	自分の長所・短所を含め、自分のことを受け入れることができますか。
規範意識	ルールをまもることができますか。	ルールをまもることができますか。	学校のきそくやクラスで決めたことについて、なぜそれが必要か、なぜ守らなければいけないかを考えることができますか。	学校の規則やクラスで決めたことについて、なぜそれが必要か、なぜ守らなければいけないかを考えることができますか。

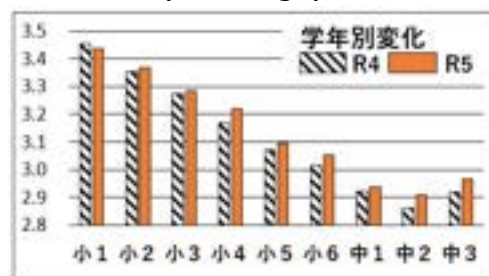
(2) 「4つのC」の概況 ※4段階評価

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
見通す力 (Concept)	R4	3.27	3.15	3.08	2.99	3.12	3.09	3.00	2.96	3.01
	R5	3.25	3.14	3.09	3.01	3.13	3.11	3.01	2.96	3.02
挑戦する力 (Challenge)	R4	3.45	3.35	3.27	3.17	3.07	3.02	2.92	2.86	2.92
	R5	3.44	3.37	3.29	3.22	3.10	3.05	2.94	2.91	2.97
関わり合う力 (Communication)	R4	3.48	3.38	3.33	3.26	3.16	3.13	3.11	3.12	3.17
	R5	3.47	3.38	3.33	3.28	3.16	3.15	3.14	3.11	3.19
自律する力 (Control)	R4	3.43	3.35	3.26	3.21	3.06	3.00	3.11	3.10	3.14
	R5	3.45	3.37	3.32	3.24	3.07	3.03	3.15	3.11	3.18

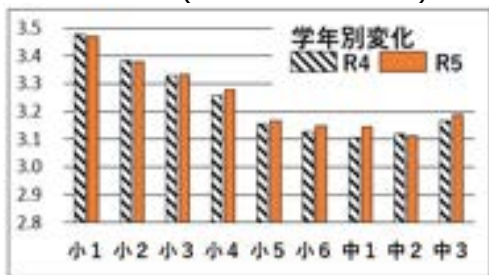
見通す力(Concept)



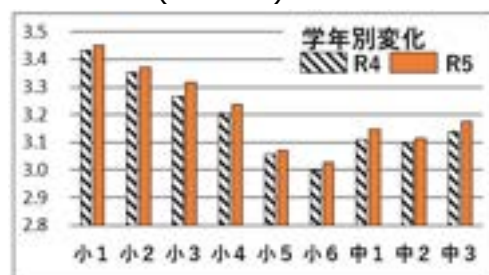
挑戦する力(Challenge)



関わり合う力(Communication)



自律する力(Control)



全体を通して	学年間の増減は昨年度と同様の動きであるものの、それぞれの数値については昨年度を若干上回る。「4つのC」それぞれにおいて数値が落ち込みやすい学年の傾向が異なるため、原因を追究し対策を講じていく。
見通す力 (Concept)	学んだ結果を整理したり改善方法を考えたりすることができる子供が増加した一方、分からなかったことを人に聞いたり調べたりできると感じる子供の割合は減少している。分からないことをそのままにせず、分かるようになるための行動に移すことができるよう支援を行っていく。
挑戦する力 (Challenge)	昨年とほぼ同様の結果を得た。各学年の昨年度と比較をすると、小1以外で改善が見られた。 「4つのC」のうち「挑戦する力(Challenge)」は他と比べて中学生の数値が一段と下がる。該当学年以外も視野に入れ、改善に向けた取り組みを行っていく。
関わり合う力 (Communication)	相手の立場になって考えられる子供が微増した一方で、傾聴をできる子供が減った。また、他者に相談できる子供が増える一方で、他者と共に解決に向けて取り組める子供は微減した。これらの傾向から、自分で考えることが出来ても実際の行動に及んでいない様子が窺える。昨年度に引き続き、自己表現の機会を充実させていく。
自律する力 (Control)	全ての学年において昨年度からの改善が見られた。項目毎の平均的な傾向を考慮すると、課題に自ら取り組める子供は減少しているが、昨年度の課題であった自己肯定感に対する数値は改善されている。課題に対して自ら考え行動することができるよう指導を行っていく。

各学校毎のデータは、それぞれが掲げる学校教育目標の具現化が図られたかを示す根拠となり得る。この数値を基に、なぜそのような結果なのか、あるいは変容したのかを全教職員で話し合い、次年度の教育改善に向けた具体的手立てを生み出すための資料(データ)として活用してほしい。

令和5年度 柏市学力・学習状況調査結果報告

編集 柏市教育委員会 教育研究所

発行 令和6年3月